

令和元年度第4回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和2年2月20日(木) 15:00～17:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 小野寺委員、高橋委員、林委員、守屋委員、橋場忠則氏（大坂委員代理）、佐々木委員、安部委員
- 4 検討結果 依然として木質バイオマス燃料、製紙用チップ原料の引き合いは強く不足感があり、製材・合板用素材も一部地域で在庫量確保に懸念が予想されるものの、全体的には素材の入荷・取引価格も比較的安定した状況となっている。
以上のことから、現在のところ供給調整の必要性はなく、国有林には今後も需給動向を注視していただくようお願いする。

5 主な意見

（1）国産材の需給等

- ① 素材生産量は増えつつあるが、まだ在庫が低水準で推移する工場がみられ、製材用材は引き合いも強く、荷動き、価格とも安定しており、この状況はまだしばらく続くと予想される。
- ② 合板用材はスギが一部地域で荷もたれ感があるも、全体的には荷動き、価格とも安定している。カラマツも一時よりも落ち着きつつあるも、いまだに引き合い強く高値保合で推移すると思われる。
- ③ 台風災害の復旧の関係で引き合いの強かった製品もだんだんと落ち着きつつあり、住宅需要もさほど振るわず、価格は保合から弱含みでの推移となると思われる。
- ④ 低質材はバイオマス用、製紙用ともに地域差があるが慢性的に不足状態で、高値推移で引き合いは強い。特にバイオマス用についてはまだ価格の上昇傾向が続くと予想される。

（2）他地域への輸送・輸出

- ① アメリカへの製材品の輸出は順調に推移しつつあるが、北米が不需要期に入っていることから、今後の動向について注視している。
- ② 西日本でのアカマツの引き合いが継続して強くなっている。